

2019 January

Vol.65

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <http://www.hiro-nishi-nh.jp/>



宮島 大鳥居前にて
 新年ということにっしーくんもおめかしして
 写真を撮ってきました。
 今年もいい一年になりますように！

■ CONTENTS ■

■2019年 年頭のご挨拶 …………… 2	■患者図書室から……………11
■第72回 国立病院総合医学会…………… 3	■栄養士のつばやき ³⁰ ……………12
■医療安全取り組み発表会の報告…………… 8	■編集後記……………12
■実習レポート……………10	■当院案内……………12

病院理念「患者さんと共に」

■基本方針

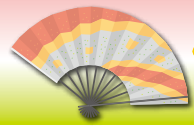
1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

■「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター
 「にっしーくん」



広島西医療センター 2019年 年頭のご挨拶

院長 奥谷 卓也



平成31年（2019年）あけましておめでとうございます。みなさん、良い年をお迎えになられたことと思います。

2018年は各地で大きな災害が続き、なかでも、西日本豪雨災害では、広島県も大きな被害を受け、多くの方が犠牲になり、今もなお不自由な生活に苦しんでおられます。交通やライフラインなどの完全復旧が待たれるところです。当院は幸い直接の被害はありませんでしたが、国立病院機構及び広島県の災害拠点病院として救護班・医療班などを派遣しました。また、大地震だけでなくあらゆる災害に備えて災害時BCP（事業継続計画）の作成を急ぎました。今年こそは、災害のないことを祈るばかりですが、病院としては、備えの充実が重要であることを再確認しているところです。

昨年は、冬季オリンピックで年を明け、サッカー W杯で盛り上がり、例年のように秋には（年中？）野球・サッカーで一喜一憂した年でもありました。冬季オリンピックでは、日本人選手の大活躍に感動し、サッカーW杯では、「良くやった！」と「惜しかった！」の半々の気持ちが残ったようです。それは、ご当地プロチームについても同様で、今年こそはと思う気持ちはわれわれが贅沢になって期待度が大き過ぎるためかも知れません。

さて、当院は安定した経営基盤の下、非常に順調に運営することが出来ました。少しは、地域医療に貢献出来たのではないかと考えております。全ベッド数440床に対する病床利用率が平均95%を超え、満床となる日も多くありました。これは、地域のみなさんに当院が認められ、頼っていただいている表れであると考えております。

提供する医療の質については、みなさんのご評価をお聞かせ願いたいところですが、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告示病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院、在宅療養後方支援病院などのさまざまな機関指定を受けており、地域の中核病院として地域社会に必要とされる医療の提供を続けるよう努力してきました。昨年度は診療報酬、福祉サービス費等の6年ぶりの同時改定となり、当院も基本的には地域のための（市民）病院であることを意識しながら、さらに社会に適應できるような特化した機能の取得が病院の存続のためには必要かも知れません。

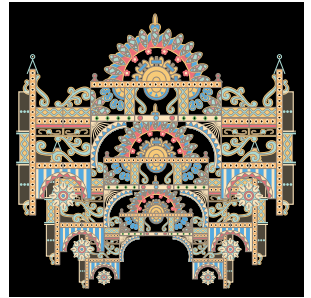
広島西医療センターが安定した水平飛行、順風満帆な航海を続けることができるよう、そして、これからも地域医療の強力な担い手として、「患者さんと共に」安全・安心な医療の提供をお約束すると同時に、職員がみんな「元気で幸せに」働き、過ごしていけるよう努めてまいります。

新年号に変わる今年、みなさんにとっても新たな良い年になりますよう祈念いたします。



第72回 国立病院総合医学会

去る11月9日～10日にかけて、「多様性のなかに個が輝く～私たちの医療を推進します」をテーマに、第72回国立病院総合医学会が兵庫県神戸市にて開催されました。広島西医療センターから、一般口演4題、ポスター発表12題、ワークショップ2題にてエントリーし、座長3名を含めた21名が発表に臨みましたので、報告致します。



一般口演発表者



□職 名：心理療法士 □氏 名：舘野 一宏
 □セッション名：「職員のメンタルヘルス向上」
 □演 題：「当院におけるストレスチェック制度の課題」
 □発表の概要・感想：
 ポスター発表で登録したので、ポスター発表（発表時間3分）になるだろうとのん気に構えていたら、実は口頭発表のセッション（発表時間7分）に当たっていたと、確認を怠て気づいたのは2週間前。なんだかバタバタしてしまいました。法改正により義務化したストレスチェック制度について、当院での過去3年分のデータから課題点を発表しました。質疑の時間では、九州グループの産業医の先生から他施設の動向についても教えていただいたので、当院の取組にも活かしていきたいです。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：寺道 紘毅
 □セッション名：「消化器-肝・胆・膵疾患の診療」
 □演 題：「肝生検が診断に有用であった原発性胆汁性胆管炎の1例」
 □発表の概要・感想：
 この度、国立病院総合医学会にて演者として発表させていただきました。学会で発表するのは初めてだったためとても緊張しましたが、質問にも何とか対応でき、無事に発表を終えることができました。兒玉先生をはじめ多くの方々にご協力いただき、とても感謝しております。ありがとうございました。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：平井 雄一郎
 □セッション名：「腎・泌尿器科疾患の診療-腎臓内科」
 □演 題：「前立腺癌に対する内分泌療法著効後、DIC発症し死亡した1剖検例」
 □発表の概要・感想：
 前立腺癌の転移経路について発表しました。また、他演者の多岐にわたる分野の発表も拝聴することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。学会発表を行うにあたり、泌尿器科・検査科の先生方をはじめ、お世話になった皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：江盛 智明
 □セッション名：「腎・泌尿器科疾患の診療-泌尿器科」
 □演 題：「多発リンパ節腫脹を伴った陰茎癌の一例」
 □発表の概要・感想：
 今回泌尿器科から上記の演題に関して発表させていただきました。初めての学会発表ということもあり、そもそも学会発表がどのようなものかもわからない状況からのスタートで不安だらけでしたが、ご指導くださった泌尿器科、病理診断科の先生方のおかげでなんとか無事に終わることができました。また、ご指導くださった先



生方、ご協力いただいた多くのスタッフの皆様、患者様のお蔭様で口演賞もいただくことができました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ワークショップ発表者



□職名：診療部長 □氏名：立山 義朗

□セッション名：「総合医療と救急医療」

□演題：「剖検の意義を再認識する」

□発表の概要・感想：

病理・検査のセッションで口演にてエントリーしていたら、いつのまにか、救急・総合診療という、見知らぬ世界のセッションに組み入れられていて、これはたいへん！と思いつつも、どうしようもないので開き直って発表させていただきました。場違いな内容にならぬよう、剖検診断が臨床診断に貢献できた症例を1例提示し、急死、DOA症例などの剖検症例リスト作成に加え、剖検が研修医の教育指導に多少とも役立っているという内容でまとめました。さすがに今回は気になって夜中に目が覚めるなどストレスフルでした。日頃から問題意識を持ち続けることは本当に難しいです。

□職名：臨床研修医 □氏名：野口 真路

□セッション名：「総合医療と救急医療」

□演題：「明らかな基礎疾患なくインフルエンザ肺炎を合併した3症例の検討」

□発表の概要・感想：

今回は「総合医療と救急医療」というセッションで発表させていただきました。発表後の質疑応答では、すべて事前にご指導していただいた先生方からいただいた想定質問通りのもので、全国の先生方も同じような悩みや考えを持って診療に当たっていることを知る機会にもなり充実した気持ちで発表を終えることができました。ご指導してくださった先生方、患者様に感謝申し上げます。



ポスターセッション発表者



□職名：看護師 □氏名：小幡 孝志

□セッション名：「看護師の勤務環境改善」

□演題：「配置換えした看護師の経験の強みと弱みの分析 ～職業経験尺度を用いて～」

□発表の概要・感想：

今回、看護師として初めての研究メンバーとなり、学会発表をさせていただきました。未経験な事ばかりで色々な方にご指導・ご鞭撻をして頂き、また一つ成長出来たと感じています。発表の時はとても緊張しましたが、聞いて戴いているみなさんに聞こえるよう、声をしっかり出して発表しました。この経験を今後も活かして頑張っていきます。

□職名：看護師 □氏名：稲田 美緒

□セッション名：「看護師による退院支援」

□演題：「看護師の退院支援に対する意識の評価～在宅看護の質自己評価尺度を使用して～」

□発表の概要・感想：

今回ポスターセッションにおいて発表させていただきました。西3病棟は内科の混合病棟で退院支援を必要とする患者さんがたくさんいますが、日頃統計としてまとめる機会はないため看護師の意識を尺度として評価することで、改めて当病棟の課題に気付くことが出来ました。私は統計もポスター発表も初めてだったので、不安な点も多くありましたが、師長さんの助言をいただきながら準備・発表を終えることができました。発表は2日目の朝トップバッターのグループでしたが、看護部長さんや後輩、他職種の方が駆けつけてくださり、少しの緊張で発表することができありがたく感じました。





□職 名：児童指導員 □氏 名：三浦 倫子

□セッション名：「退院支援・在宅ケア」

□演 題：「大学進学による一人暮らしを希望した脊髄性筋萎縮症児への

児童指導員による地域移行支援」

□発表の概要・感想：

今回、総合医学会で発表したことで、会場からのご質問もあり、多職種の中の児童指導員としての役割について考えることができました。自分の行なった支援を振り返ることができ、充実した機会になりました。今回の経験を今後の業務に活かしていきたいと思えます。発表を行う上で、ご指導をいただいた古川小児科医長をはじめ、療育指導室やその他の職員のご意見等に感謝いたします。何より、対象児との貴重な出会いに感謝いたします。ありがとうございました。

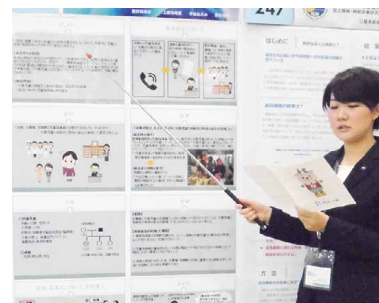
□職 名：児童指導員 □氏 名：上田 祐希菜

□セッション名：「家族を取り巻く環境と支援」

□演 題：「措置入所児童の家族面会実現に向けた児童指導員の取り組みについて」

□発表の概要・感想：

この度、総合医学会で発表させていただいたことは自分の中で大きな経験となりました。また、児童指導員としての日々の業務を見つめ直す機会となりました。会場では、他病院の取り組みを知り、児童指導員としての今後の課題も明らかになりました。これを機に、より一層業務に精進して参りたいと思えます。発表準備では、多くの方にご協力とご指導をいただきましたこと感謝しております。誠にありがとうございました。



□職 名：診療放射線技師 □氏 名：下釜 悠輔

□セッション名：「画像診断の最新情報」

□演 題：「膝関節におけるMIXEDシーケンスを用いたSTIR,T2WI,PDWI同時撮影法」

□発表の概要・感想：

今回の発表では、膝関節におけるMRIのシーケンスについて発表させていただきました。リハビリ、薬剤部、放射線部の合同セッションであったために、あまり専門的なディスカッションとはいきませんでした。大変勉強になりました。次回はベストポスター賞が取れるように、頑張りたいと思えます。



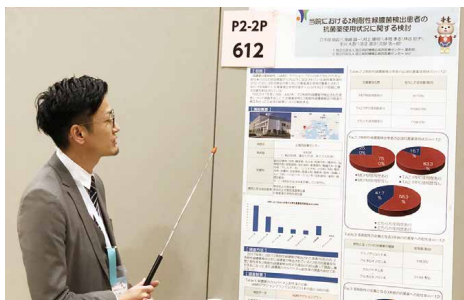
□職 名：保育士 □氏 名：小椋 結衣

□セッション名：「保育士の療育活動」

□演 題：「情緒不安定のみられる利用者への対応について」

□発表の概要・感想：

初めての総合医学会の発表はとても緊張しましたが、よい経験になりました。対象者の気分の落ち込みやパニックがみられた際に思いを傾聴すること、前向きな発言をして気分転換できるように関わることなどの保育士の対応について発表させていただきました。会場では、多施設の方々の発表を見ることができ、とても勉強になりました。今回発表の機会を与えてくださったことに、紙面をお借りし感謝申し上げます。



□職 名：薬剤師 □氏 名：下田 昭広

□セッション名：「抗菌薬の適正使用を支援」

□演 題：「当院における2剤耐性緑膿菌検出患者の抗菌薬使用状況に関する検討」

□発表の概要・感想：

今回、11月10日(土)午後感染対策のポスターセッションで発表させていただきました。このセッションで発表させていただくと同時に、他施設が行っている感染対策の様々な取り組みを知ることができ大変勉強になりました。ご指導いただきました方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。



□職 名：臨床検査技師 □氏 名：長者 睦輝
 □セッション名：「コミュニケーションでインシデント防止」
 □演 題：「病理標本作製における医療安全

～インシデント0を目指して～業務の作業を振り返る～

□発表の概要・感想：

今回、「病理標本作製における医療安全」について発表させていただきました。初めての学会発表ということで緊張しましたが、発表や学会を通して貴重な経験をさせていただきました。今後も積極的に学会に参加し、努力していきたいと思っております。また、今回の発表にあたって資料集めから抄録作成、ポスター作成にいたるまで多くの方に助けいただきました。ご協力をいただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

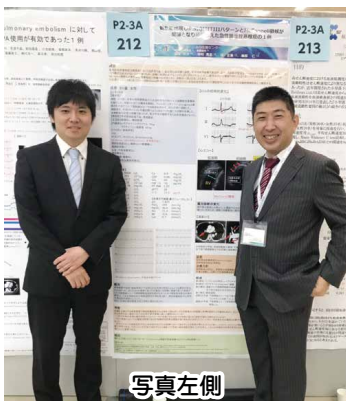
□職 名：臨床研修医 □氏 名：近藤 賢史

□セッション名：「感染症、血栓塞栓症」

□演 題：「複数回の血液培養で検出されず、下肢血管造影にて閉塞部位の吸引により起炎菌が判明した感染性心内膜炎の1例」

□発表の概要・感想：

昨年に引き続き、循環器での発表となりました。昨年の口演賞に引き続き、ポスター賞を獲得することができました。入職以来、5回 (!) に渡って学会のご指導をいただいた中村先生には感謝してもきれません。私の今後の礎になる2年間の集大成となりました。国病学会は普通の学会と違い、内科外科含めた様々な診療科のみならず、コメディカルの発表を見ることができるというのは大きな特徴で、今回も興味のある分野(呼吸器感染症、耐性菌、感染対策など)も学ぶことができました。また前日には岩国研修医との懇親会もあり、多職種・他院との繋がりを持てるいい病院だと再認識しました。例の如く、発表終了後は中村先生と神戸牛を食べ、今後に向けてより一層頑張ろうと思う学会でした。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：堀尾 祐太

□セッション名：「感染症、血栓塞栓症」

□演 題：「新たに出現したS I Q III T IIIパターンとMcConnell徴候が契機となり診断しえた急性肺血栓塞栓症の1例」

□発表の概要・感想：

ポスターセッションにおいて、循環器から「新たに出現したS I Q III T IIIパターンとMcConnell徴候が契機となり診断しえた急性肺血栓塞栓症の1例」という演題で発表させていただきました。私にとって初めての学会発表でしたが、意外と緊張することなく発表することができました。また、同セッション内で発表された症例も興味深いものが多く大変勉強になりました。直接の指導医である中村先生、および循環器科の先生方に大変感謝しております。次回も学会で発表する機会がありましたら今回の経験を生かしてより良い発表につなげていけたらいいなと思っております。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：藤田 翔平

□セッション名：「血液疾患の治療とケア」

□演 題：「大胸筋内に血腫をきたした凝固第13因子欠乏症の1例」

□発表の概要・感想：

今回の学会で、上記演題にて発表させていただきました。また多くの発表を聞き勉強することができ大いに刺激を受けました。発表原稿の作成では血液内科の下村先生、高蓋先生、角野先生に指導していただき、何とか直前にまとめることができました。今回いただいたテーマについては全く知識がなく、参考文献・情報に当たりながら理解を深めることができました。発表資料のまとめ方や発表の仕方を含め大変貴重な経験になりました。指導医の下村先生、高蓋先生、角野先生にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



座 長



写真右側

□職 名：院長 □氏 名：奥谷 卓也

□セッション名：「5大テーマシンポジウム「セーフティネットの障害児(者)支援」

□発表の概要・感想：

わたくしは例年通り学会開催前2日前に神戸へ入り、各協議会の役員会、総会など8件をハシゴしながら、学会最終日を迎えました。

最終日の早朝に、学会の5大テーマである「セーフティネットの障害児(者)の支援」と題するシンポジウムの座長(司会)を務め、4名の演者の方に発表してもらいました。最初は、重症心身障害における年齢や障害に応じた支援について、2題目は、今大きな問題となっている障害者虐待防止を研修ニーズの観点から問題提起して

いただきました。そして、障害児者が地域で安心して豊かに暮らすために我々が出来ることについて討論し、最後に、小児科医師から、小児在宅支援の実際の取り組みについて、まとめと共におはなしをいただきました。今回の演題はそれぞれ若干内容が異なる発表でしたが、いずれもセーフティネット分野にとって重要な課題であり、フロアーからの発言も活発で非常に有意義なシンポジウムになったのではないかと考えております。

わたし自身も座長という立場ではなく、ひとりの聴講者として、今後の病院運営に役立てていけたらとの思いで勉強させていただきました。

□職 名：診療部長 □氏 名：下村 壮司

□セッション名：「血液・造血器疾患の診療(2)「血液疾患の治療とケア」

□発表の概要・感想：

血液疾患の治療とケアで座長担当でした。どの発表も素晴らしく、特に当院研修医・藤田先生の発表は珍しい出血性疾患で他の血液医からも高評価のまとめでした。医師のみならず、看護・薬剤科・リハビリなど他職種の領域でも、臨床研究の手順ののっとなって立案・調査・まとめが行われており、医師がなかなか対応できない患者さんの問題への真摯な取り組みを学びました。



写真右側

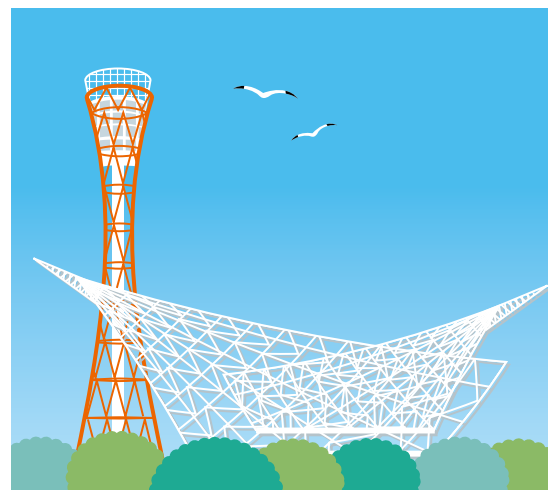


□職 名：業務班長 □氏 名：紀川 紀次

□セッション名：「病院経営・管理(16)「経費削減の取り組み」

□発表の概要・感想：

今回、総合医学会にてポスター発表の座長を務めさせていただきました。担当は、経費削減の取り組みについての9題でした。各発表は、アイデアと病院を改善したいという気持ちに溢れており、私自身の業務に対する気持ちを新たにさせて頂く良い機会となりました。また、学会全体では働き方改革の討議もされており、様々な取り組みを行うとき、業務効率(職員の手間)の検討を同時に行うことが必須となったことを認識させられました。最後になりましたが、貴重な経験をさせて頂き、関連の皆様にお礼申し上げます。





医療安全取り組み発表会の報告

～各部署における医療安全の取り組み～

セーフティマネジメント部会学習グループ

今年で10回目の節目となる医療安全取り組み発表会が11月21日に行われました。
全21部署から発表があり、投票の結果入賞した5部署からコメントを頂きました。

第1位

臨床検査科

今回、検査科でも病棟でも起こり得るアンモニアのインシデントについて取り上げ、医療安全取り組みを行いました。

実際に起こったアンモニアのインシデントを踏まえ、アンモニア測定の時間遅延によってどのくらいの影響が出るのかを検証した結果、氷水に検体を浸ける事の重要さや、迅速に測定を行えば行うほど正確なデータが得られる事が分かりました。また、検査科でも出来ることはないか考え、今回の医療安全を発表しました。

アンモニア測定がなぜ迅速測定しなければならないのか、なぜ時間遅延によって影響が出るのか、アンモニアに限らず臨床的意義もしっかりと理解した上で業務に努めていきたいと思えます。



薬剤部

国立病院機構は異動が多い職場です。新採用者や異動してきた職員でも注意すべき事にすぐ気が付けるような医療安全の取り組みが必要でした。そこで、薬剤部では「見たらその場ですぐ気が付くリスクマネジメント」をテーマにあげました。薬の払い出し先を間違えるのであれば「払い出し先の文字サイズを大きく」したり、規格を間違える可能性がある薬があれば「規格の部分のカッコで強調」してみたり。シンプルな取り組みですが、注意してほしい部分が誰の目にも入ってくるように心がけました。特に「休薬期間が必要な抗がん薬」の取り組みはみなさんに知って欲しいです。薬品名の頭に「★休薬確認」の文字が表示されている薬は「薬を飲まない期間」があります。薬を飲まない期間を守れているか必ず確認してください。よろしくお願いします。

第2位



第3位

1 若葉病棟

1若葉病棟は、骨折を起こす事案から患者に痛い思いは絶対にさせない！という思いで、コメディカルを含め病棟全体での再発防止の取り組みを行いました。正しい知識と技術の向上を図るため、患者にあった統一した看護ケアを習得し実施することが出来ることを目標に勉強会を実施しました。勉強会前は、日常生活の援助の中、一人で介助するには難しいな、でも大丈夫だろうという気持ちがあったが家族を含めた勉強会の後では、スタッフの骨折に対する意識の変化とその意識付けをさらに高めることができました。1若葉病棟の患者さんは、自ら痛みを訴える事が出来ない患者が多いため統一した看護ケアの提供といつもと何か違うと感じる感性が求められます。引き続き感性を磨く努力を行っていきます。今回の発表を行うにあたりご協力して頂いた家族の方々に心より感謝いたします。



同率第3位

東3病棟



東3病棟は血液疾患に対する免疫・抗がん剤治療を主とした50床の病棟です。注射薬や内服薬による治療がほとんど毎日行われており、その治療に携わる看護師は毎日多くの種類の薬品を取り扱っています。病棟内の年間のインシデント件数を集計すると、点滴や内服にまつわるインシデントの件数は全体の1/3を超えており、病棟スタッフの若返りも進む現在においてインシデント減少に向けた取り組みが必要であると感じました。

調査を進めてみると、忙しい時に決められた手順を遵守できていない傾向にあることがわかり、今一度基礎から意識付けしていく必要性を感じました。若い世代だけではなく、上の世代にも基礎を徹底していただき、それを下の世代に指導していけるような環境が整うように今後も活動していきたいと思ひます。

医 局

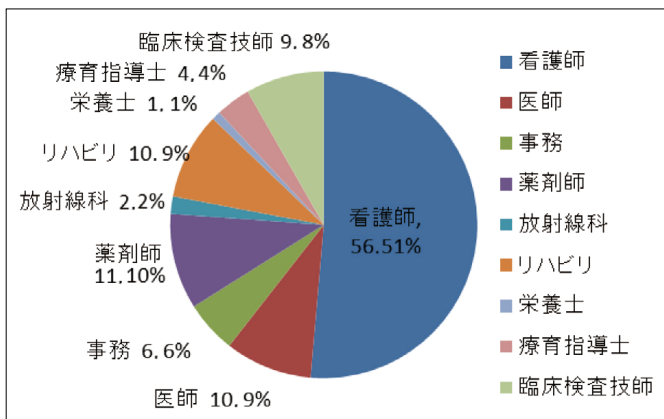
今回医療安全に関して、今までとは違い医療者側の視点で考える機会ができ、今後の医師として活動していく中でも気をつけるべき点などに気づくことができました。自分たちの発表について準備していく中で、自分たちの失敗や気になった点などを共有することで、自分ひとりではまだ経験していない事例を疑似体験でき、さらにそのことに対して自分たちなりに考え話し合うことにより、今後起こりうる事として想定しておくことで、余計なトラブルを防ぐことができたり、トラブルが起こった際のトラブルシューティングに少しでも早く移れる可能性が高くなったように感じます。これからは、今まで以上に様々な点に気を配りながら、医療者にとっても、もちろん患者さんにとっても安全な医療を提供できるよう努力していこうと思ひます。

第4位

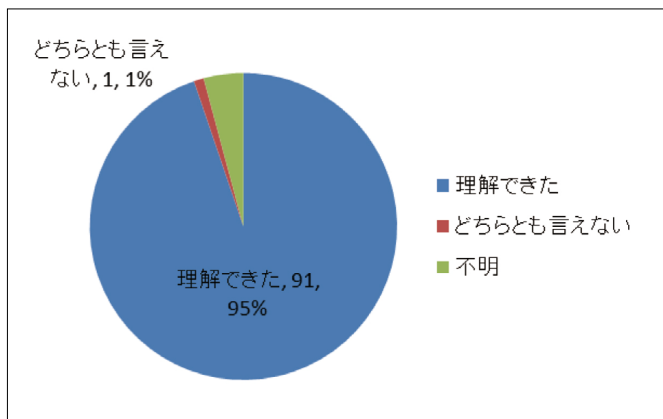


平成30年度医療安全取り組み発表会 アンケート結果

■参加者の内訳



■研修の理解度






実習レポート

様々な教育機関から実習・見学に訪れた学生さんに、当院の感想を聞きました。


期間：11/12～11/16 5日間
学校：山陽女子短期大学
名前：井場 なずな 受入：栄養管理室

5日間の実習を通して、病院で働いておられる栄養士さんがどのような仕事をするのかすごく勉強になりました。糖尿病バイキングという一大イベントに私たちも関わらせていただいたこと、とてもうれしく思います。ありがとうございました。




期間：11/12～11/16 5日間
学校：山陽女子短期大学
名前：久保田 彩 受入：栄養管理室

5日間の実習を通して、病院での栄養管理業務、厨房業務の大変さを実感しました。特に印象に残ったことは厨病業務での作業です。入院していた人が退院したり、絶食だった人が食べられるようになったりと食事形態の変化等、毎日変わる状況での対応は、情報の共有が不可欠であると感じました。お忙しい中丁寧にご指導いただき、本当にありがとうございました。




期間：11/12～11/16 5日間
学校：山陽女子短期大学
名前：永田 瑞貴 受入：栄養管理室

5日間、実習をさせていただいて、病院の栄養士はどんな業務を行っているのかを学ぶことができました。5日間という短い期間でしたが、たくさん学ぶことができたので、今後に活かしていきたいとします。ありがとうございました。




期間：11/16 1日間
学校：日治山大学大学院
名前：岡本 大輝 受入：心理療法士

広島西医療センターにて、よく用いられる神経心理検査を教えていただきました。実際に検査者、被検者を体験したことで得た具体的なイメージを、今後の臨床活動に活かしたいです。また、筋・神経難病をもつ患者様の事例を聴き、心理士の具体的な介入方法や患者様の心理状態の変化を詳しく聴き、とても勉強になりました。




期間：11/16 1日間
学校：日治山大学大学院
名前：黒川 恵理佳 受入：心理療法士

先日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。患者様は身体の治療のために病院に来ているため、必ずしも心理的アプローチのニーズがあるとは限らないと知りました。心理士として活躍する際にはどんな現場であっても、誰のための支援なのか、どんな支援が適切かということを考えて行いたいと考えました。



期間：11/16 1日間
学校：日治山大学大学院
名前：亀本 楓 受入：心理療法士

広島西医療センターにおける心理士の役割を学ぶため、実習をさせていただきました。その中で、様々な症状を抱える患者さんの「不安」や「つらさ」を受け止めようとする心理士の方々の姿勢を学ぶことができました。病気と闘う上で、身体の痛みを取り除くだけでなく、心の痛みにも目を向けて向き合っていくことの大切さを改めて実感しました。





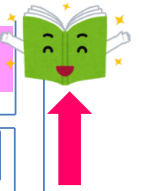
紹介したいっ!

患者図書室から

患者図書室

売店

正面玄関



「図書紹介ファイル」2019年版 出来ました!

今年も患者図書室の図書紹介ファイルを作りました。

患者図書室の蔵書は「病気や健康」に関する本が約1,000冊。小説やマンガなどの「一般図書」が約6,000冊。残念ながら、これらの本を全て本棚に置くことは出来ず、たくさんの本を書庫に収納しています。

“皆さまにぜひ、図書室の全ての本を ご紹介したいっ!” そのような思いから、これら2冊のファイルを作りました。(下写真)

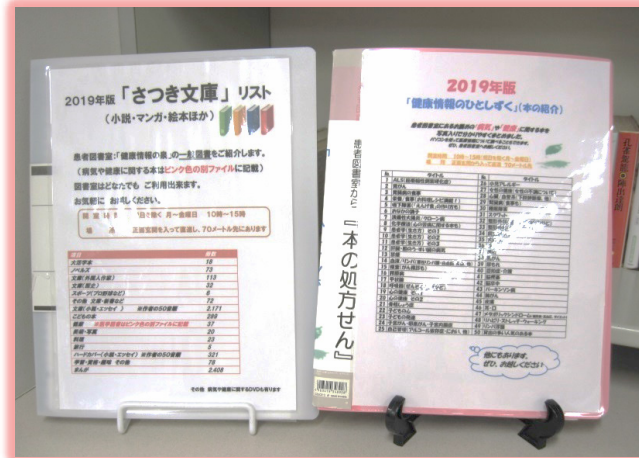
ファイルは各待合室、病棟デイルーム、イートインに配布しています。図書室までの移動が困難な入院患者さんにはリストを見ていただき、病室まで本をお持ちするサービスも行っています。

「病気や健康」に関する本の貸し出しは「入院患者さんと そのご家族のみ」ですが、閲覧はどなたでも、ご自由に出来ます。通院患者さんには、診察待ちの時間のみ、貸し出しをしています。「一般図書」は一般の方にも、貸し出しをしており、マンガなどは多くの方に喜ばれています。
※返却期限はどちらも1週間です。

皆様のご利用を心よりお待ちしております。



1階 イートイン(談話室) 本コーナー



「病気や健康」に関する本のご紹介
「健康情報のひとしずく」

右 ピンク色のファイル

※疾患別におススメの本を写真入りで
分かりやすく、ご紹介。



小説やマンガ、絵本などのご紹介
「さつき文庫」

左 白色のファイル

広島西医療センター公認キャラクター

にっしーくん ぬい絵 登場!

ほくの ぬい絵が図書室の気晴らしアイテム
おりがみ・クイズ・ぬい絵に新たに加わったよ。

“ぜひ、やってみてね!”





ブロッコリーは栄養豊富！



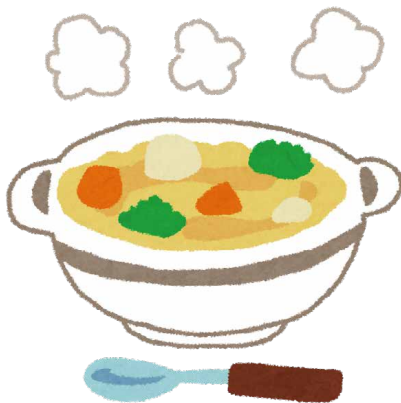
ブロッコリーはキャベツの変種でカリフラワーと同種の野菜です。1年を通して流通していますが、冬の寒い時期が旬！その栄養はほうれん草に負けないくらいビタミン・ミネラル類が豊富に含まれています。特に、ビタミンCが豊富なため、風邪やインフルエンザが多くなるこの時期にうってつけ。5～6房ほど食べれば1日に必要なビタミンCを摂取することができます。ビタミンCを損なわないよう、茹で時間は長くないようにしたいですね。

また、赤血球を作り出すために必要な葉酸（ビタミンの一種）も多く含まれていますので、貧血予防に役立ちます。

ブロッコリーは添え野菜のイメージがありますが、ごま和えなどもオススメです。茎も皮を厚めに剥いて炒め物にすると美味しく食べられます。

1. 緑色が濃い
2. 全体にしまりがあり密集している
3. 色が黄色くなっているもの、花が咲いているものは避ける
4. 茎にスが入っているものは避ける

で栄養たっぷりのブロッコリーを選びましょう。



■編集後記

あけましておめでとうございます。

寒い時期が続きますがいかがお過ごしでしょうか。私はこたつから抜け出せない日々が続いており、運動不足を感じております。

皆様も健康には気をつけてお過ごしください。

(経営企画係長 伊藤)

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時～16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約（CT・MRI 含む）は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご連絡下さい。

糖尿病教室を開催しております

参加ご希望の方は、あらかじめ予約をお願いいたします（当日予約可能です）。

問い合わせ先：栄養管理室(0827)57-8192

■病院代表電話番号 TEL (0827)57-7151

■予約センター(直通) TEL (0827)59-0251

■地域医療連携室

ダイヤルイン (0827)57-7183(内線2140)

FAX (0827)57-7701